

継続した支援必要

関東・東北豪雨「AMDA」田中さん報告

関東・東北を襲った豪雨で被害を受けた栃木県内で支援活動にあたった国際医療NGO「AMDA」（北区）

職員の田中俊祐さん（31）が県内に戻り、被災地の様子を語った。被災者のニーズが時間とともに変化すること

「被災者に寄り添うことが大事」

を実感したといい、「被災した人たちの気持ちに寄り添うことが大事」と継続した支援の必要性を指摘した。

災害に遭った全国の地域を支援する「大規模災害被災地支援条例」を制定している総社市とAMDAの合同

プロジェクトとして派遣された。12日に市職員3人と市役所を出発し、途中、AMDA所属の看護師が合流。千葉県日光市では、13日に避難指示が出された芹沢地区で活動した。避難所となった保育園には高齢者17人が避難し、AMDAの看護師が血圧を測るなど健康状態をチェック。田中さんは必要なものを聞き取るなどした。避難所では歯ブラシ



田中俊祐さん

や下着などが不足し、その日のうちに調達。一方、支援物資として届いていた飲料水は大量にあった。田中さんは「ニーズは時間とともに変わる。必要なものも行ってみて初めて分かった」。また高齢者には、看護師による

健康相談が最も喜ばれたという。

翌14日には鹿沼市で、床上浸水した住宅の片付けなどを手伝い、不足していた土のうやスコップなどを調達・寄付した。田中さんは「現地ではまだ復旧作業が続く、日常に戻れない人がいる。今後もできる支援がまだあると思う」と話している。【五十嵐朋子】

を実感したといい、「被災した人たちの気持ちに寄り添うことが大事」と継続した支援の必要性を指摘した。

災害に遭った全国の地域を支援する「大規模災害被災地支援条例」を制定している総社市とAMDAの合同プロジェクトとして派遣された。12日に市職員3人と市役所を出発し、途中、AMDA所属の看護師が合流。千葉県日光市では、13日に避難指示が出された芹沢地区で活動した。避難所となった保育園には高齢者17人が避難し、AMDAの看護師が血圧を測るなど健康状態をチェック。田中さんは必要なものを聞き取るなどした。避難所では歯ブラシ



栃木県鹿沼市で床上浸水した民家から家具を運び出すAMDAスタッフら。AMDA提供